

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

一次の一步は？

NO. 7



放デイの子ども達の最後の一人が帰り、静かになった**あんず**のトイレに入った時のことでした。トイレの中に置いてあるスリッパが、入った人が履きやすいような向きに、きちんと揃えてありました。思わず微笑んで、「ありがとう」って言ってしまいました。ステキな一瞬でした。“誰に教えてもらったのかな？”“繰り返し繰り返し伝えてきたんだろうな…”と、今日までの軌跡を考えると、トイレの中なのに、ちょっと熱くなりました。小さなことかもしれませんが、大きなことだと思いませんか？

その子にも“おむつ外し”の時期があり、初めてトイレで“おしっこ”ができたときは、きっと、井戸を掘りあてたかの如く、流れ出る“おしっこ”に感動したと思います。両手で受け止めたくなるくらいうれしいですね。コツコツ取り組んできたことですから。

今、**あんず**の小さな子達も、全員がトイレ中ですね。「えっ？うちはまだ…」って声も聞こえてきそうですが、いやいや、「これからやっていこう」という段取りを組むところから、トイレは始まっているんですよ。“トイレは暖かい時期に”なんて固定観念があるかもしれませんが、いつからでも無理なく始められます。そして、どの子も必ずトイレでできるようになります。身体の機能的な問題で、なかなか自分でできない子もいますが、“おしっこ”とウンチはトイレで、という生活習慣を作ることはできますから、自立は目指せます。

段取りとしては、まずは、『気持ちよくおむつを替えよう』から始め、『トイレの空間を知ろう』次に、『おむつはトイレで交換しよう』『おしっこの間隔をつかもう』『トイレに座ってみよう』と進み、『出そうな時間あたりにトイレに行ってみよう』『パンツで過ごそう』『おもらしを感じよう』をコツコツと続けながら“大当たり！”を待ちます。これを、無理なくできる時間帯から始めます。そして、当たりが来ても次を欲張らないで、「きっと次はしばらく先」と思って、言葉かけや手に力を入れすぎずに続けていきます。あんずの帰り際におしっこが出たら、家に着くまではパンツに挑戦してみちゃったり。そして少しずつ、お母さんの荷物は減っていきます。荷物が減ってくると、お母さんの自信は膨らんでいくんですよ。「こんな感じでいいんだ！」って。

今回は、トイレの話でしたが、食事のことも、着替えのことも、一人ひとりに合った作戦を練っていけば必ず積み上がっていきます。楽しく振り返っていきたいですね。

小さい子達は、ゼロからのスタートのものが多く、積み上がり方にも手応えがあり、生活にすぐに活かされていきます。そして、子ども自身もご家庭も少しずつラクになってきます。ところが、大きくなってくると、生活面の目標がちょっと見えにくくなって来るかもしれません。ゼロとイチの違いは大きいですが、50と51の違いは、強くは感じにくいですからね。でも、同じ一歩なんです。次の一歩も、きっと生活を豊かにしていくにちがいありません。

スリッパのエピソードもその一歩だと思います。



自分の生活が自立しているのかどうか、私はかなり怪しいですが、あの揃えられたスリッパに教えられました。自分の次の一歩を探さなくちゃって。(H28. 12.) K